

立命電友会

RITSUMEI DENYŪKAI

No.
61

目次

P1-2	巻頭言
P2-3	退職のご挨拶
P3	新任のご挨拶
P4	研究室紹介
P5	在学生からの投稿 2023年度表彰者一覧
P6	就職状況 (1) (2)
P7	同窓会だより
P8	修了・卒業祝賀会祝辞 学系だより、訃報、事務局だより



巻頭言

技術者としての私の学びの道

DJI JAPAN 株式会社 代表取締役
本庄 謙一 (1989年電気工学科卒)

はじめに

私は現在、東京都港区にオフィスを構える DJI JAPAN 株式会社の代表を勤めるとともに、弊社の開発センター長を兼務し、主にドローンに搭載されるカメラおよび手持ちカメラの技術開発・推進を行っています。本稿では、私が如何にして学び、技術者として夢を追求する道を歩んで来たのかをご紹介します。

立命館大学時代まで

建設会社に勤める父の影響で小学生の頃から物作りに興味を持ち、電気工作がとても楽しみでした。今ではレトロな「テレビテニス」のキットを自作して、テレビ画面にゲームが映し出された時にはとても感動したことを覚えています。物作りに感動するというこのような経験から、将来は電気系の仕事をしたいという漠然とした目標が生まれ、大学では専門の電気系の技術を学びたいと思っていました。その念願が叶って1985年4月に立命館大学理工学部電気工学科に入学しました。

一方、大学での校友との生活は楽しく、好きなゲームに打ち込む日々が続きました。1回生を終えた頃、校友から成績が良くないと良い会社に就職することができないと言われたことをきっかけに、2回生から学びと遊びとの両立を図り、学びのポイントを捉える努力をするようになりました。電気実験の研修では、レポートの作成とその校閲が必要で、先生からのご指導で現象を正確に捉えて「目的」に対して論理的に道筋を立てるといった基本の考え方を学ぶことができたと思います。

4回生の卒業研究では、津田川勝先生のご指導の下で「光半導体の特性測定装置に関する研究」に携わりました。HeNe レーザー、光を偏向させる LiNbO₃ 素

子、偏光板、フォトダイオード、そして LiNbO₃ 素子の印加電圧制御回路を用いることにより、当時不安定だった HeNe レーザーの安定した光強度評価値が得られる測定装置を完成することができました。この研究の究極の目的は「遠隔での絶対温度測定の標準機の実現」であるということ、先生が常日頃から熱意を持って語られていました。物事を成し遂げるためには「目的」「熱意」が重要なキーワードであることを実践しながら学べたことが、現在仕事に携わる上でも私の道標になっています。

卒業後の取り組み

1989年4月に松下電器（現パナソニック）に入社し、デジタル VTR (DVC および DVCPRO) の開発に従事しました。テープ状に記録されたデータトラックにヘッドを正確にトレースする技術の開発を行いました。高い性能で量産の安定した品質を確保するためには、物理現象を理論に基づき原理原則で捉えながら開発を進めることが大切であることを学び、「原理原則の追究」こそが自分の生きがいであることに気付いたのはこの頃でした。

会社生活での転機となったのは、私にとって新天地であるデジタルカメラのレンズ制御の技術開発に携わったことです。2008年10月に商品化されたミラーレスカメラの一号機 (DMC-G1) はカメラ業界にインパクトを与えることができ、私の技術者としての誇りになったと同時に、私の将来の夢は「理想のカメラシステムを開発すること」であると思い描くようになりました。

その後、もっと広い世界で私の将来の夢を実現したいという思い先行で、民生用のドローンで世界をリードしている DJI を本社とする日本オフィス DJI JAPAN に転職することにしました。

主力製品であるドローンは主に上空から撮影を行うため、細部まで撮影できる高い解像度、明暗差の大きい被写体の撮影に適した広いダイナミックレンジ、暗がりでの撮影におけるノイズの低減など、手持ちのカメラとは異なる性能と小型化との両立が重要で、レンズや撮像素子、画像処理において高度な要素開発が必要になります。業界をリードする高性能な製品を次々に開発した結果、ドローンの用途は、趣味としての空撮に限らず、測量・点検、警備、災害対策、農業支援などに広がっています。

一方、DJIでは手持ちのカメラも開発しています。一般向け製品では、Osmo Pocketなどに代表されるように、デザインも配慮しながら小型・軽量で持ちやすく、撮影しやすいレンズ・カメラを開発し、多くの方々に好評をいただいています。また、映画製作などで使用されるDJI Ronin 4Dは、従来は大掛かりなセットでオペレーターが複数人必要だった撮影シーンにおいても、ワンオペレーションでの撮影形態を可能にするとともに、従来の3軸ジンバルに縦揺れを補正する機構を追加してカメラの上下方向の映像ブレを低減することにより安定した映像撮影を可能にした機種で、業

界から注目を浴びています。

このように付加価値を創出しながら多種多様な商品に対する技術開発を行うなかで、新たな技術提案、原理原則を追求しながらの先進的な技術開発を行うことに、より生きがいを感じながら、夢を追求する日々を送っています。

■ 学生の皆様へ贈る言葉

実りのある人生を送るためには、将来を明るく照らす「将来の夢」を見出すことが大切だと思います。「将来の夢」を起点にして自分にとって貴重な情報が蓄積してきます。順境の時には、しっかり楽しみ、逆境に備え、逆境の時にはチャンスと捉えて前向きに課題を克服するという姿勢も、この「将来の夢」が力になります。若い皆様には、ぜひ「将来の夢」を描いて、今後の実りある人生を歩んでいただきたいと切に思います。

■ おわりに

末尾になりますが、立命電友会の会報誌の執筆の機会を与えてくださった事務局の皆様へ感謝いたします。今後とも立命電友会の益々のご発展を祈念しております。

退職のご挨拶

退職にあたって

電気電子工学科 教授 藤枝 一郎

着任の挨拶をしたのがつい先日のように思えます。私は2003年4月に電子光情報工学科に着任しました。NECから本学へ移ってしばらくは天国のような職場だと思っていました。何よりも時間を自由に使えるのが嬉しかったです。学生の諸君や同僚の方々との協働にもやりがいを感じました。

研究は、2005年に博士課程に入学して早期修了した社会人学生のおかげで軌道に乗りました。当時は制度が始まって間もない頃でした。一人の学生の熱意は周りに拡がり、一緒に研究に取り組んだ修士課程の院生のべ5名がScottsdale、北京、San Joseで成果を発表しました。同時期にバックライトの研究も始めました。目的はディスプレイの視野角の制御や色再現域の拡大で、ディスプレイ関連の企業の方々に興味を持ってもらえました。2008年には学外研究の制度を利用して、半年間Palo Alto Research Center (PARC)に受け入れてもらいました。1990年に私をポスドクとして雇ってくれた方が健在で、“printable large-area electronics”の研究に参画しました。集光型太陽光発

電の研究者とも知り合い、この分野の研究を始めるヒントをもらいました。2012年と2016年にも短い間でしたがPARCに滞在しました。その度に新しい出会いがあり、昔の知り合いに再会しました。近年は蛍光材料の応用研究に携わりました。ここでも一人の学生の姿が周りによく影響することが分かりました。本当に熱意は伝染するもので、みんなが活発に研究に取り組むようになりました。その結果、21年間にのべ19人の院生が海外に渡航して国際会議で成果を発表しました。感染症の拡大で困難な時期がありましたが、2023年夏に4年ぶりにSan Diegoに院生と共に出張し、改めて学会発表の楽しさを実感しました。

授業については、学外研究や学科の再編を機に少しずつ担当科目が変わりました。教材を準備する過程では大いに脳が活性化されました。例えば、実験科目の目的は専門科目の理解を助けることですが、“Problem-Based Learning”の側面もあります。主体的に行動して問題を解決する経験は卒業研究でも生きるはずで、もちろん教員が力を合わせて内容を更新することが大切です。着任した頃は既にデジタルオシロの時代でしたが、教室ではポラロイドカメラやX-Yレコーダが現役でした。やがてどなたかが新しいテーマを開発し、時代遅れの機器は消えました。この意味

でも学科は運命共同体です。学科でこのようなことを話し合えてよかったです。オンラインで多くを学べる時代になりましたが、対面で助言して問題の解決を促すという手法は今後も続くでしょう。

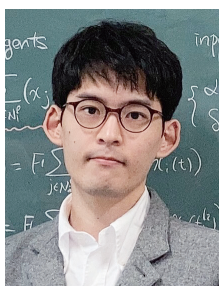
組織の運営については、着任3年目に学系長と学科長を務めました。当時の学系は3学科体制でした。小さい学科では人材不足のため役職に就く周期が短くなります。理工学部の執行部や全学の入試委員会と国際部の仕事も経験しました。例えば、留学生の勧誘のために2年続けてウクライナへ出張したのはよく覚えています。彼の地の工科大学には実習用の大きな飛行機があり、焼け焦げたスプートニクが学内の博物館に展

示されていました。いずれも実物です。周期律表のメンデレーエフの銅像もありました。物理の分野で博士号を取りたいと言う学生が何人か相談に現れました。また、本学の留学希望者の面接では、目を輝かして自分の夢を話す学生から元気を分けてもらいました。このような経験を通して多様な考え方や仕事の進め方があることも分かり、視野が広がりました。

在職中には学内外の多くの方々に助けていただきました。元気な学生の諸君とも出会えて、楽しい21年間でした。多様な考えを持つ同志が増えると運命共同体の将来は明るくなります。電子システム系出身の方々と教職員の皆様のご活躍を祈っています。

新任のご挨拶

電気電子工学科



助教 難波 巧

2024年4月より電気電子工学科に助教(任期制)として着任しました。専門分野はシステム制御工学で、局所的な情報交換と意思決定を通じてシステム全体の協調的なタスクを達成する「マルチエージェントシステム」の分散協調制御

理論に関する研究を行っています。

出身は神奈川県で、2014年に国立東京工業大学附属科学技術高校を卒業し本学電気電子工学科に入学しました。2016年の研究室仮配属から学位取得に至るまで、システム制御工学研究室を主宰する鷹羽浄嗣先生にご指導いただきました。数理工学的な立場から問題の本質を深く掘り下げる鷹羽先生の姿勢は私の研究者像に強く影響を与え、ホワイトボードの前での日常的な議論(や雑談)を通じて多くのことを学びました。卒業研究・修士論文では、再生可能エネルギー大量導入下の次世代電力ネットワークの分散協調制御理論に関する研究を行いました。修士課程修了後は、川崎市に本拠を構える電機メーカーのエネルギー関連事業会社で再生可能エネルギーに関する技術職として勤務しました。昨今注目を集める仮想発電所(VPP)やネガワット(節電)取引の実証を中心とする新しい事業部門で勤務し、コロナ禍の真っ只中ではありましたが、さまざまな業務に携わることができました。しかし、アカデミアでの研究の道を諦めることができず、2021年8月に退職し同年9月に本学博士後期課程へ進学しました。

博士課程では、エージェントがクラウド(データを保存する入れもの)を介して非同期的に情報交換する

状況下における協調制御理論の研究を行い、2024年3月に早期修了で学位を取得しました。この間、科学技術振興機構(JST)の助成に基づく立命館先進研究アカデミー(RARA)学生フェロー第1期に採用いただき、その金銭的支援の下で、制御理論研究の1つの中心地であるオランダ・フローニンゲン大学への滞在を実現できました。約2ヶ月間の短い武者修行でしたが、普段の生活とは異なる熱意あふれる国際色豊かな学生たちとの交流は刺激的で、ほんとうに充実したものとなりました。滞在期間中に知り合った若手教員とは帰国後も交流を持ち、共同研究まで繋げることができました。

振り返ると、自分の気持ちに正直に、やりたいことを続けて学位を取得し、教員としての職を得られたことはたいへんに幸せなことと思います。物理や実験が嫌いだった高校生の頃、物体の落下運動と抵抗・コンデンサからなる回路の振る舞いが同じ形の数理モデル(微分方程式)で記述できることを本から知ったときの感動をいまでも思い出せます。そして、数理モデルを用いてさまざまな対象を操る方法を(文字通り)システムティックに考えるシステム制御工学の面白さを、日々の研究活動を通じて体感し続けています。助教のポジションは任期制であるため、この間に優れた業績を挙げ自身の能力を磨き、今後のキャリアを切り拓く必要があります。研究活動に邁進し、それにより本学が目指す「次世代研究大学の実現」に若手研究者として貢献したいと考えます。また、教育についても、熱意のある学生の挑戦を応援できる教員でありたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻いただきたく、何卒宜しくお願いします。

研究室紹介

先進医用画像解析処理研究室

教授 中山 良平



2015年に三重大学放射線科から立命館大学理工学部へ異動し、私の研究室はこの度10周年を迎えます。本稿では、私の研究内容と研究室の様子について紹介いたします。

私の研究室では、研究成果をもとに社会へ貢献することを研究の理念とし、画像処理や機械学習、深層学習などの情報工学技術を医療に応用する研究を進めています。論文を書くための研究ではなく、臨床現場で実際に用いるための研究やソフトウェア開発を目指しています。具体的には診断支援を目的とし、医用画像に含まれる病変を強調／可視化、医用画像の高画質化／高解像度化、病変の病理組織型（良悪性）の可能性評価、診断の客観的な判断材料となる形態的特徴やテクスチャ特徴などの定量化に取り組んでいます。また、研究成果を基盤としたソフトウェアを開発し、医療施設の読影室に導入することで、診断の正確さ、再現性、効率化の向上を図っています。前職場である三重大学をはじめ9大学病院、3医療施設と共同研究を実施し、そこから多くの医療データを提供していただいています。また、学生が医師と直接ディスカッションしながら研究を進めることが、私の研究室の特徴です。

現在、研究室には学部4回生15名、修士課程学生19名、そして博士課程学生1名の計35名が所属しています。ゼミは週2回開催し、学生は隔週で進捗報告の原稿提出とプレゼンを行います。学生には、まず何をするにしてもしっかりと考え行動を決めること、他人に分かり易く伝えることを意識するよう指導しています。特に現在ブームとなっている深層学習は日進月歩で、研究を進めているうちに新しい技術が次々出てきます。そこで目移りし、少しずつ積み上げてきた

自分の技術を捨て去り、他人が作った新しい技術に飛び付き再現することを研究と勘違いしないようにして欲しいと思っています。学生には、①研究を始めた時点での最新技術を医療に応用し、その技術の問題点を明らかにする、②その問題点を解決するアプローチを学生が自ら提案、開発する、③その改良した技術を医療に応用し、問題点を明らかにする。その繰り返しを学生には徹底させたいと考えています。私の研究室では、MATLAB、Pythonを主に使用しています。MATLABの使用は、海外医療機器メーカーや大学が採用していること、安定性や臨床現場への導入の容易さからです。また、MATLABはinstruction、デモが充実しており、ある程度やる気がある学生は独学で習得できるので、プログラミングの学習に多くの時間を割くことなく、研究に集中できることも理由の一つになります。

私は医工学の研究者を育成するために、立命館大学理工学部へ異動してきました。残念ながら、医療系企業への就職者はまだ出ていませんが、一流企業に就職してくれる学生が多いので、学生の成長に寄与できたかなと内心喜んでいます。最後に、働きやすい環境を提供してくださっている本学の教職員の皆様に心より感謝申し上げます。



在学生からの投稿

大学での学びと研究

博士課程前期課程 岡野研究室 河田 大樹

■ はじめに

私は、立命館大学大学院の博士課程前期課程に在籍しており、サイバーフィジカルシステム研究室（岡野研究室）に所属しています。

本稿では、これまでの大学での学びや研究活動について述べさせていただきます。

■ 大学での学び

私は2020年に本学の理工学部電気電子工学科に入学しました。2020年はコロナウイルスが蔓延した年で、入学直後からオンラインの講義となり、1年生の間はほとんど自宅で勉強していたことを今でも覚えています。1人で勉強することに不安や苦勞もありましたが、分からないことを自主的に調査して解決する力や、勉強時間を管理して計画的に学習を進める力を身につけられたことは幸いだったと思います。

私が電気電子工学科を選んだ理由は、現代社会の至る所で利用されている電気電子工学の理論を体系的に学び、技術者として活躍したいと考えていたからです。この4年間で、パワーエレクトロニクス、通信工学、半導体工学、制御工学など幅広い分野を学ぶことができました。その中でも、1年生の「電気電子工学入門」におけるシステムの数理モデル化や、3年生の「電気電子工学実験Ⅲ」におけるボールアンドビームの制御実験を通して、対象を数式としてモデル化して意のまま

に操作するという点に魅力を感じ、制御工学を深く学びたいと考えるようになりました。そして、研究室配属では制御工学に関する研究を実施している岡野研究室を志望しました。

■ 研究活動

私が現在実施している研究テーマは「ヒトの制御行動の工学的解釈と数理モデル化」です。このテーマは研究室にとって新しいテーマであり、先達がない状況でした。そのため、関連する文献を探して理論を学びながら、実験環境やプログラムを一から作ることに苦勞しました。しかし、岡野先生の丁寧なご指導と研究室の皆様の協力により、研究成果を卒業論文としてまとめることができました。そして、2024年の3月に開催された第11回制御部門マルチシンポジウムにてポスター発表を行い、多くの先生方や学生の皆様と議論を交わすことができました。初めてのポスター発表でとても緊張しましたが、多くの方々と意見交換ができ、大学院における研究活動の大きな原動力になりました。今後はより一層精進し、さらなる研究成果を得られるように日々努力してまいります。

■ おわりに

本稿の執筆にあたり、改めて大学での生活を振り返ることができました。このような機会を与えてくださった立命電友会の皆様に感謝いたします。また、日頃より多大なるご指導を賜っている岡野先生をはじめ、学系の諸先生方、研究室の皆様に深く感謝いたします。そして、今日に至るまで精神的、経済的に支えてくださった両親に深く感謝いたします。

電子システム系 2023年度 学業成績および研究活動 表彰者一覧

2023年度、在学時に学業・研究活動を活発に行ってきた学生23名が表彰されました。
おめでとうございます。(敬称略)

大学院生

● 最優秀

金子 隼大 西羅 真央 広瀬創一郎

● 優秀

隠岐 温人 清水 智貴 白岩 諒也
立田 一葵 七木田 薫哉 橋本 宏一
林 宏樹 藤田 太一 松宮 弘樹
三浦 佑斗 渡邊 迅登

学部生

● 成績最優秀

河田 大樹 西出 翔哉

● 優秀

大橋 和奏 小林亜彩香 下村 崇碩
中 友希恵 福坂 陽 水野 絢太
吉津 侑哉

2023 (令和 5) 年度 電子システム系修了生・卒業生・進学・就職状況

2024 年 3 月修了・卒業の電子システム系大学院前期課程・学部の進路状況を表 1 に、就職先一覧を表 2 に示します。学部卒業生は 244 名、大学院前期課程の修了者は 109 名であり、前期課程修了者の中から 3 名が後期課程に進学しました。学部卒業生のうち 139 名が大学院前期課程に進学しており、大学院進学率は約 57% (昨年度 57% / 一昨年度 60%) と例年同水準の堅調な進学率です。就職希望者については、大学院生の約 99%、学部生についても約 91% が就職先決定しており、電子システム系での就職の力強さは健在であると言えます。

日本および世界の社会経済情勢については既に皆様ご存じの通りですが、就職委員として学生および企業様と接する中でも、DX (デジタルトランスフォーメーション) に対する需要・関心の高まり、設備・ハードウェア系技術職での若手人材に対する強い需要、などを感じます。ですが近年特に目立つ変化は、学生の就職活動の早期化と長期化です。最近の学生たちの中では、卒業予定年の 2 年前 (例えば大学院前期課程進学予定者であれば卒業研究を終える時期) には自己分析や業界研究に着手しはじめ、その年の夏季休暇中に行われるインターンに積極的に参加し、冬期期間中の短期インターンやオープンカンパニーに参加し、春季から今頃にかけて自由選考および学校推薦での本格的な

就職活動を行う、というスケジュールで活動する学生も珍しくなくなりました。キャリアセンターではこのような近況に合わせた早期からのガイダンスを開催しており、当学系・学科においても卒業生によるキャリアデザインセミナーや講演会、業界説明会などを正課の一部として企画実施しておりますが、更に早い時期 (場合により学部 1・2 年生時期) から学生達が自分のキャリアを意識する機会を、教員が工夫し提供し続ける必要があるように感じられます。

このように年々変化する進路就職事情のなかで、教員による様々な在学生への支援が必要であると考えており、先輩諸氏に置かれましてもより一層のご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

就職委員 (宇野 重康)

表 1: 進学・就職者数一覧 2024 年 4 月 5 現在

Table with 7 columns: 卒修, 進学, 就職民間, 就職(公務員), その他, 活動中未報告. Rows include University (電気電子, 電子情報, 院計) and Faculty (電気電子, 電子情報, 学部計, 総計).

表 2: 就職先一覧

Table with 2 columns: 業種中分類, 企業名 (正式). Rows include 電子・電機 (30社 60名), 情報処理・ソフトウェア (32社 36名), 機械・プラントエンジニアリング (15社 19名).

(大学院・修了生の就職先も含む)

Table with 2 columns: 業種中分類, 企業名 (正式). Rows include 自動車・輸送用機器 (11社 12名), エネルギー (7社 10名), 精密機器・医療用機器 (4社 5名), 通信関連 (4社 9名), 素材・化学・ゴム・ガラス・セメント・セラミックス (2社 3名), 鉄鋼・非鉄・金属製品 (2社 2名), 情報・インターネットサービス (8社 9名), 運輸 (2社 2名), 建設・住宅・不動産 (3社 4名), その他 (22社 24名), 公務員 (3名).

同窓会だより

46年卒「電四六」同窓会

電友会10周年からスタートした昭和46年電気工学科卒業「電四六」会を残暑が残る9月16日に「京都駅がんこ店」にて第17回を開催しました。

コロナが落ち着き開催でき久しぶりの再会です。このコロナ禍の3年間に私たちは卒業50周年を迎えておりましたが開催ができず非常に残念な思いをしておりました。

やっと開催にこぎつけられホッとしております。また、これまで長く継続してこられたのも毎回遠方からも多くの方がご参加していただいた賜物だと感謝しております。年々少なくなるかと思っておりましたが今回も西は広島県、東は三重県から17名の参加者で非常に喜んでおります。

幹事(天野、辻、梶原、荻田)4人での計画で遠方を配慮し駅に近く早めの時間、二次会、会費等を考慮し懇親会は京都駅ビル内の「がんこ京都駅ビル店」で開催しました。

今回も病気でなくなられた方がおられ懇親会に先立ち黙祷から始めております。発足当時から幹事の一員で活動していただいた長村さんがお亡くなりになりご冥福をお祈りいたします。前回の同窓会では東大阪発人工衛星「まいど1号」に回路基板を搭載したことを自慢されていたのを思い出します。

コロナ禍では皆さん感染を避けて自宅等で思いの過ごし方をされておりました。ある方は横浜に着岸した豪華客船に乗船されており隔離され下船後も行動制限で大変な時を過ごされたそうです。



各自の近況報告を毎回して頂いています。ほとんどが後期高齢者で体力的な話題が多く元気を保つのにジム通いやゴルフ、テニス等、運動系や野菜作りの話題が多いですがまだまだ仕事で頑張る方もおられそれぞれの人生を歩んでおられます。

いつまでも体力と気力を維持していきたいと思えます。宴会後集合写真を撮ろうと皆さんを集めたのですがお酒が入っていたため何人かが行方がわからず全員では撮れませんでした。

二次会は雰囲気を変え駅前のカラオケ店で行い盛り上がりました。時間の過ぎるのは早く楽しい一日を過ごして皆さん「また元気で」のあいさつで解散しております。

体調不良で参加できなかった方も多くおられます。今後の開催につきましてはさらに高齢者になるため皆さんのご意見をお聞きし決めていきたいと思えます。

これからはますます健康に注意されてまた会える日を楽しみにしております。(昭和46年卒 荻田 泰廣)

昭和三十四年卒組 “米寿” を祝い 集う

立命館大学 理工学部 電気工学科 三四郎会(米寿を祝う有志の会)

電気工学科を昭和三十四年度に卒業した同期生の会・“三四郎会”のメンバーの殆どが八十八歳を迎える年度に成ったことを“祝おう”と、急ぎ集合できる有志が“米寿を祝う会”を開催した。(同期であっても、すでに米寿を終えた学友もいるが)“祝う会”は、令

和五年十月十七日・JR 京都駅ビル構内・加賀屋京都店で開かれた。「母校」・立命館大学・森島理事長、仲谷総長(大学学長)、立命館大学校友会・門川会長、「当会」(立命電友会)・森岡会長らからの祝電が披露される中、今回合開催準備に手をつくした松井正夫君手造りの貴重な資料(母校史&電気工学科史、社会の出来事や、当時の新聞、週刊誌に掲載された写真などを、年表にまとめた小冊子)を中心に、近況等を語り合い、健康に気配りして再会を約束し散会した。『三四郎会』は、161名(名簿把握人数)のクラスメートを会員とした“同期会”。竹見徳一郎君、安藤彦三君、山川吉彦君、松井正夫君らを主幹に、多くの人が世話役となり、ほぼ毎年継続して会合を開催。開催地や会場を京都、大阪、料亭、ホテル…等々、世話役が工夫して長年継続開催されて来た。近年では、京都で開催して、舞妓さん同席が、楽しみの一つとなり更に会員、仲間が逝去した時は、残された奥様を会員の一人として迎え“三四郎会”を開催。しかし、突然の《あのコロナ騒動》のため断続開催が中断。その上、年齢的に体力の衰え、体調不良などもあり、“会”は休眠状態。今回は特例として、集合可能な仲間だけでも“米寿を祝う会を開催しよう”となった。

(取材・文責者 三四郎会メンバー 荒木 敏)



“米寿を祝う会”の模様と資料冊子



立命電友会三十周年記念大会に参集した三四郎会の学友たち

立命電友会 2023 年度 (令和5) 年度入会式開催

「立命電友会入会式にあたりお祝いの言葉として」
立命電友会入会のお祝い

昭和37年卒 幹事 小寺 實

新しく立命電友会へ入会の皆さん、ご入会おめでとうございます。皆さんを新しい仲間としてお迎えすることができ、本当に嬉しく思っています。皆さん一人ひとりが電友会のビジョンとミッションに大きな価値をもたらしてくれるものと信じています。バイタリティーとパワーに溢れている皆さんなら、なじみ早くすぐに交流と活躍ができる場があると思います。

入会式は、コロナ後、初めての対面開催に戻り、会長ご挨拶に始まり、交流（簡易食）・表彰そして抽選会でありましたが、今後、見直しと活発化が進むことでしょう。電友会は、会長の挨拶にありましたが、設立は1992年11月1日、会員は約16,000名、今回の入会は235名（学部生）、また会則での目的は「会員相互の親睦を計り、相互の社会的ネットワークを構築し、あわせて立命館学園と科学技術の発展に寄与することを

目的とする」となっていて、支部の活動も進んでいます。

会の動静は会報やネットに依るも、近年は同窓会（同級会）の支援は元より各種コミュニティ対応、事業案内、工場見学などイベントにも取り込まれ、更には当会の皆さんの国内外活動の有効情報源などとしての活性化が期待されます。（ホームページアドレス <http://ritsumeit-denyukai.com/report/index.html>）

しかし、今春から社会人など新しい活動を始めた皆さんにとって、初めての生活には不安や分からない事もあるかと思えます。その場その場で覚えることも多くあり、これから沢山出てくるかもしれませんが、先輩たちもそういう経験を経ての現在です。電友会に於いても初めは分からなくても大丈夫です。遠慮なく先輩たちに訊いて、どんどん馴染んでいってください。さあ、新たなスタートを切りましょう。

皆さんのご活躍を心より期待しています。



学系だより

退職のご挨拶

電子システム系 学系事務室 中山 朋恵

私は2019年からの5年間電子システム系事務室にて勤務させていただき、多くの経験を積ませていただきました。この間、電子システム系の先生方をはじめ、秘書の皆様、職員の方々に貴重なご指導やご支援をいただきながら任期満了を迎えられましたこと、心から感謝しております。

学系事務室は先生や学生との距離も近く、日々、楽しく業務に携わることができました。電子システム系事務室での勤務にて培いましたこれまでのご縁や経験は永遠に私の心に刻まれます。

最後になりましたが、お世話になりました先生方、卒業生、並びに立命電友会の皆様の益々のご活躍とご

健勝を祈念し、退職にあたってのご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

- 退職 藤枝 一郎 教授 令和6年3月31日、退職
- 新任 難波 巧 令和6年4月1日、電気電子工学科 助教に着任

訃報 ご冥福をお祈り申し上げます（敬称略）

昭31年卒	畑 正明	令和2年1月10日
昭31年卒	物部 保夫	令和3年8月
昭31年卒	道木 欣三	令和4年3月
昭31年卒	山本 晃	令和5年9月26日
昭31年卒	中井 信治	令和5年10月16日
昭31年卒	三宅 一彰	令和5年12月1日
昭39年卒	栗林 茂樹	令和5年7月16日

事務局だより

2024年5月末で立命電友会を退職しました上田美津子です。8年間の長きに渡りお世話になりました。その間、3年間はコロナ禍で通常のお仕事は出来ず大変な経験でした。会員の皆さまには、さまざまな電友会の取り組みにご協力をいただきましてありがとうございました。

これからも益々のご発展をお祈りしております。

立命電友会会報61号の発行にあたり、ご寄稿を頂きました皆様に対し心よりお礼を申し上げます。

今後も会報内容充実に一層の努力を重ねて参りたいと考えております。どうぞ、会員の皆様の積極的なご寄稿を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

住所及びアドレスの変更がございましたら事務局までご連絡

絡頂きますよう、よろしく願い申し上げます。ホームページから変更受付しておりますのでご利用下さい。（岸・鍋谷（後任））

立命電友会連絡先

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学理工学部電子システム系内

立命電友会事務局 川畑 良尚

岸 千津代（月・木）

鍋谷 十重子（月・木）

電話：077（561）2554 FAX：077（561）2663

e-mail：den-yu@st.ritsumeit.ac.jp

<http://ritsumeit-denyukai.com/>

（会報の題字は久保之俊氏）